

公益財団法人 JAPAN BOWLING 及び加盟団体における 倫理に関するガイドライン

2024年(令和6年)4月1日制定

(趣旨)

スポーツは、人生を豊かにし、充実したものにするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つである。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の健全な発達に必要不可欠であり、人々が生涯にわたってスポーツを楽しむことは、極めて大きな意義を有している。

公益財団法人 JAPAN BOWLING (以下「この法人」という。) 及び加盟団体は、我が国におけるボウリング競技界を統括し、代表する団体として、ボウリング競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成並びに国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする公益性と社会性を兼ね備えた団体として、その使命を担っている。

したがって所属する役・職員はもとより、監督、コーチ、審判員、登録競技者等においては、その社会的な使命や意義を自覚し、常にスポーツの基本であるルール、マナーを守り、フェアプレーの精神に則り行動することが求められている。

しかしながら、近年、スポーツ界において、人道的問題(指導者の競技選手に対する暴力やセクシュアル・ハラスメント)あるいは補助金などの不適切な処理又は横領など、訴訟にも及ぶ問題が発生していることは、誠に憂えるべき事態であるとともに、この法人及び加盟団体においても十分な留意が必要である。

このような状況を十分に考慮し、この法人及び加盟団体においては、常に公明正大でかつ健全化を目指した組織体制の整備と、健全な組織運営を図るために必要な倫理に関する諸事項をガイドラインとしてまとめることとする。

I. 人道的行為に起因する事項

1. 身体的・精神的暴力(バイオレンス)行為等について

役・職員をはじめ監督、コーチ等現場指導者に対しては、講習会・研修会を通じ、自己の役割や責任等を指導徹底する。

- (1) 組織の運営又は指導する際に意見の相違などが生じた場合は、互いに話し合い、相手の人格を尊重して相互理解に努めること。
特に、監督、コーチ等の指導的立場にある者は、競技者等への指導の際、暴力行為と受け取られるような行いには十分留意すること。
- (2) ボウリング競技を行う際又は指導する際に問題解決の手段として、暴力行為(直接的暴力、暴言、脅迫、威圧等)を行うことは、厳に禁ずる。

2. 身体的及び精神的セクシュアル・ハラスメントについて

この法人の役・職員、監督、コーチ等現場指導者及び登録競技者等に対しては、広報・情報資料を通じて具体的な教育啓発活動を行うとともに、講習会・研修会等においても周知徹底を図る。

- (1) 安易に性的言動、表現を行うことは、厳に慎むこと。
- (2) 親しみの言動、表現であっても、個人によって受け止め方に違いがあることを認識すること。
- (3) 本人に悪意がない場合でも、その言動によって相手が不快に感じた場合は、セクシュアル・ハラスメントになることを認識すること。
- (4) 性的言動、表現を受けて不快に感じた場合は、無視せずに相手に対して「不快である」旨をはっきりと意思表示をすること。
(注意・・・無視した場合は、「受け入れている」と相手に誤解される恐れがある。)

3. アンチ・ドーピング及び薬物乱用防止について

監督、コーチ等指導的立場にある者はもとより、登録競技者等に対して徹底した啓発活動を行う。

- (1) 競技能力を高めるためにドーピングを行うことは、フェアプレーの精神に反するばかりでなく、競技者の健康を害するものであるので絶対に行わないこと。
ドーピングコントロール検査実施競技会を契機に、この法人及び加盟団体においては、これまで以上にアンチ・ドーピングの教育・啓発活動の積極的な展開を図ること。
- (2) 本人にドーピングを行った意識がなくても、摂取した薬品などによっては、ドーピングの対象薬物が含まれている場合もあるため、競技者及び指導者は、ドーピングに関する知識を十分に深めること。
- (3) 麻薬や覚せい剤等薬物の使用は、反社会的な行為のみならず、使用した人間の人格をも破壊するものであり、いかなる目的であっても絶対に使用しないこと。

4. 役員及び監督、コーチ、審判員等の指導的立場にある者並びに競技者等との関係の在り方について

相手の立場を尊重するとともに、自分の置かれている立場を自覚して責任ある行動に努める。

- (1) 役員及び監督、コーチ、審判員等の指導的立場にある者並びに競技者等は、上司と部下、先輩と後輩等の上下関係を利用し、立場の弱い者に対して、人道的に反する行動や強要をしないこと。
- (2) 役員及び監督、コーチ、審判員等の指導的立場にある者は、その立場、役割、権限等の範囲を超えた精神的・身体的暴力行為等を競技会・行事などに携わる関係者及び競技者等に与えないこと。
- (3) プライバシー(個人的人権)の問題については、役員、監督、コーチ、審判員等指導的立場にある者及び競技者等がそれぞれ十分に配慮すること。

II. 不適切な経理処理に起因する事項

1. 経理処理について

この法人は、公的な組織であることを認識し、公益法人会計基準に基づく基準(経理処理)を作成し、その基準に則り正しい経理をするとともに、内部牽制組織及び監事並びに外部監査人による監査体制を確立しておく。

- (1) 補助金などの取扱いについては、補助先・助成先のその補助・助成の目的及び経費要項等を順守の上、適正な経理処理を行い、決して他の目的に流用しないこと。
- (2) 経理処理については、不法又は不正行為・不祥事等を未然に防ぐため、内部牽制を行い、少数の担当役・職員に任せきりにしないこと。

2. 不正行為について

次に示すような行為は、厳に禁じるよう、罰則も含めて規定化する。

- (1) 組織内・外の金銭の横領など
- (2) 不適切な報酬、手当、手数料、接待、供応等の直接又は間接的な強要、受領もしくは提供
- (3) 組織内・外における施設、用器具等の購入などに関わる贈収賄行為
- (4) 組織内・外における不適切な指導又は監査

III. 国際大会における代表競技選手の選考に関する事項

この法人は、国際大会の代表選手などの選考にあたっては、派遣大会ごとに設定した選考基準により決定する。選考結果に疑惑を抱かせることのないよう公正かつ透明性ある選考を

行う。

また、選考結果に対して質問や抗議等があった場合は、速やかに対応するとともに、相手に理解されるよう明快な説明に努めるなど、適切に処理するものとする。

IV. その他、一般社会人としての社会規範に関する事項

本ガイドラインに示す対象者は、特に、競技会等に関わる時以外の日常生活においても社会規範としての慣習、道徳、法律を強く意識・励行し、社会秩序の維持に努めるものとする。